

伝えたい

戦後80年へ過去から未来

伝えたい記憶と言葉

あなたはどんな戦後を過してしましたか？

誰かに伝えたい体験や思いはありませんか？

この夏、終戦から79年を迎えるに当たり戦争の体験談を募集したところ、諏訪、上伊那地域から貴重な原稿をお寄せいただきました。

戦争を体験した人が少なくなる中、戦争の記憶、先人の言葉を次世代に継承し続けることの大切さを改めて実感し、伝え続けることがいまを生きる私たちの責務であるとの認識を新たにしました。
来年の終戦80年に向け、引き続き体験談を募集します。
お寄せいただいた文章や写真を、随時紹介していきます。

私は昭和の終るころから現在まで「平和を希求する短歌」を、折に触れ作り短歌の雑誌や新聞歌壇等に発表してきました。その中の私としても忘れられない思い出の歌を次に記します。

アウシユビツツ虐殺なまの映写見たつた四十年ほど前のことなり(1988年作)

「戦争は悪だ」とうたひし宮格「つつしみ思い来し」無言館

戦争は悪だ犬死にだと言へずして無言のままに死にし画家の絵

苦き唾呑みつつ見入る戦没の画学生の絵
「無言館」冬

八月六日ころ愚直におろがむとゆけばひぐらし鳴く無言館

祈りつつただに黙して疎み観つ無言館の若き自我像

無言館のうたを縁とし相会ひし友達ふたりたんぽぽが好き

平和希求のうた

小林勝幸さん 93

伊那市美篤

憲法九条をわが心とし生徒らと年どし学び来たりしものを

身に深くひそみ居るらし夏草の野に口ずさむ「長崎の鐘」

言葉をば飾らぬ生徒信じつつ秋の日語る
チエルノブイリ事故を

武装して敬礼をして征くか君死すことな
かれ空は春立つ
(平成16年2月、陸海空、自衛隊による
イラク復興支援が本格化し、自衛隊が派遣
された)。若い母親と幼い子どもが涙しな
がら手を振っていた。)

※お寄せいただいた原文を尊重して掲載
しました。

松山に松の風あり永久に思へ原爆忌今日
熊蟬も鳴く

「被爆柳」とてヒロシマゆ人伝えたる柳
の木伊那のみ寺に太る

蟾螂が斧もて虎と戦うか悲しみ黙す吾は
みみずく

プーチンと習(シ)氏の会へる映像を
観てゐてにんげんの業を思へる(令和6年
のこと)



「平和を希求する短歌」を発表し続けている小林勝幸さん。「生きている限り戦争に反対したい。戦争について言い過ぎはない」